

平成25年度第1回愛知県周産期医療協議会 議 事 要 約

日時：平成25年6月7日（金） 午後3時から午後5時

場所：名古屋第一赤十字病院 東棟2階 内ヶ島講堂

●委員

出席者：飯尾委員、石田委員、一木委員、岩田委員、上村委員、岡田委員、小口委員、可世木委員、加藤（紀）委員、加藤（有）委員、鬼頭委員、木村委員、小谷委員（代理 岩瀬先生）、小山委員、近藤委員、榊原委員、柴田委員（代理 鈴木先生）、志村委員、杉浦委員、西村委員（代理 竹本先生）、丹羽委員（代理 星野主査）、早川委員、二村委員、古橋委員、北條委員（代理 水野先生）、松澤委員、松本委員、宮田委員、森川委員

欠席者：田中委員、寺澤委員

●事務局

出席者：愛知県健康福祉部医務国保課長、愛知県健康福祉部医務国保課主幹、名古屋第二赤十字病院第二産婦人科副部長

欠席者：名古屋第二赤十字病院新生児科副部長

●オブザーバー

出席者：家田先生、大野先生、河井先生、篠原先生、鈴森先生、中島先生、林先生、樋口先生、松原先生、山本先生、横井先生、和田先生

欠席者：関谷先生、吉田先生

司会者：名古屋第二赤十字病院第二産婦人科副部長

議長：二村会長

1 開会

2 二村会長挨拶

3 新任委員・オブザーバー・事務局あいさつ

松本技監・鬼頭委員・志村委員・丹羽委員（代理星野主査）・横井オブザーバー
愛知県健康福祉部医務国保課長・名古屋第二赤十字病院第二産婦人科副部長

4 議事

1. 愛知県周産期医療情報システムについて

愛知県周産期医療情報システムに関して、大きな変更はない。ホームページのシステムについて何か不具合がある場合は、事務局宛にご連絡をいただきたい。

【質疑応答等】

なし

2. 平成25年度専門相談研修会の事業計画について

総合周産期母子医療センター及び地域周産期母子医療センターにて持ち回りで実施している。1回につき会場費、講師料合わせて15万2千円ほどの予算をつけている。各施設において企画し、カバーする地域医療圏を対象に実施している。

(1) 平成25年度実施施設

公立陶生病院、小牧市民病院、半田市立半田病院、岡崎市民病院、安城更生病院、名古屋第一赤十字病院の6施設。

(2) 今後の開催予定

未定。開催日などが決定したら、事務局まで連絡をお願いしたい。

【質疑応答等】

なし

3. 平成25年度周産期医療関係者研修会（新生児心肺蘇生法講習会）の事業計画について

総合周産期母子医療センター及び地域周産期母子医療センターにて実施している。1回につき会場費、講師料が10万4千円の予算をつけている。今年度から1回当たりの予算が少額になっているので注意をお願いしたい。参考として、講師料としてドクターが1名につき1万円、ナースが1名につき5千円を基準としている。

(1) 今年度実施実績

資料No.2-1の陶生病院での資料を参考にお願いしたい。

【質疑応答等】

- ・今年度から予算の仕組みの関係で、若干費用が昨年度までと比べて減額されているようだが、もし25年度の予算で余剰が出る見通しになれば、追加での開催も可能だと思うので、年度の早い内は無理だと思われるが、年度末が迫ってきた頃に追加で開催したいという希望のある施設があれば、事務局に問い合わせただければ、費用の捻出ができるかどうかということが分かるかと思う。今の時点ではまったく予測はつかないが、もし年度末に向かって開催の予定がある場合は、一度問い合わせ願いたい。

4. 平成24年度愛知県周産期医療調査・研究事業の報告について

【愛知県下における常位胎盤早期剥離症例の実態調査】

名古屋大学医学部 産婦人科学 講師 小谷 友美

名古屋大学医学部 産婦人科学 助教 炭竈 誠二

小谷委員欠席につき、結果報告に対しましては、資料を参照していただきたい。付け加えることはない。

【質疑応答等】

なし

【NICU長期入院患児に対する円滑な予防接種体制の確立】

愛知医科大学 生殖周産期母子医療センター新生児集中治療部門 二村 眞秀

愛知医科大学 生殖周産期母子医療センター新生児集中治療部門 山田 恭聖

愛知医科大学 生殖周産期母子医療センター新生児集中治療部門 武藤 大輔

報告書を作成して、皆様のお手元にお届けした。内容については、以前もご報告させていただいたが、7月の周産期新生児医学会で、この、特に行政側の対応についての要点について学会報告させていただこうと思っている。これに関連して、今日は愛知県小児科医会の先生がいらしていないが、5月27日に愛知県医師会の方で、第2回のワクチンの広域化についての説明会があった。そこで平成26年度の4月1日を期して、愛知県も色々と広域化、つまり同一市町村内でなくても定期接種ができるようにしようという動きになった。その後県内の54自治体の担当者を集めて説明会をすると聞いている。その結果GOサインが出ているのかどうか分からないが、愛知県医師会の意向としては、広域化をとにかく始めるというものである。ただ委託料が、各自治体によって皆さんご存知のとおりばらばらなので、非常に事務作業が煩雑ではあるが、とにかく始めるということがまず第一ということで、平成26年度4月1日をもって始めることにおおそく踏んでいる。NICUに長く入院している子供達もいるわけで、そういう子供達も手続きは少し面倒かもしれないが、そこは親御さんに行っていたら、通常のスケジュールどおりにという風になったかと思う。もちろんそうではない一般の子供さんも、広域化の恩恵は受けられると思う。このようなことがあったので、付け加えるという形で報告させていただいた。

【質疑応答等】

なし

【愛知県における新生児医療ネットワークの構築に関する検討】

名古屋第二赤十字病院 新生児科部長兼総合周産期母子医療センター副センター長 田中 太平
名古屋大学大学院 周産期母子医学 教授 早川 昌弘
愛知医科大学 生殖周産期母子医療センター新生児集中治療部門 山田 恭聖

研究の内容は資料にまとめたので、ご参考としてください。かい摘んで話しますと、NeoForumというネットワークを立ち上げ、それぞれのワーキンググループを作った。「教育」「施設情報データベース」「アンケート調査」「施設交流」「他職種交流とのコラボレーション」という5つのグループを作り、それぞれのコンテンツ、どういうことをNeoForumにアップしていくかということを昨年度話し合い、その作業が少し始まっている。あとは具体的に活用法として効果を出したのが、資料6ページにある。これは昨年末にMRSAの死亡事例を踏まえて病棟閉鎖を行ったが、その時の入院の制限をどうするか、感染制御のこと等について、NeoForumの方に掲載し、18施設にアンケートを出して15施設から回答を得て、このようにまとめた。非常にスピーディに回答が集まり、緊急事態、このように即座に回答を集めたい時に非常に役立つツールと感じた。

【質疑応答等】

なし

5. 平成25年度愛知県周産期医療調査・研究事業の事業計画について

【愛知県におけるHTLV-1母子感染の実態調査】

名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学分野	杉浦 時雄
名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学分野	加藤 丈典
名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学分野	長崎 理香
名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学分野	伊藤 孝一

愛知県産婦人科医会会長（星ヶ丘マタニティー病院）

近藤 東臣

愛知県産婦人科医会理事（若葉台クリニック）

鈴木 正利

平成23年にご承知のとおり産婦人科診療ガイドラインが改正されて、問題提起がいくつかあった。私も研究班の方に入れさせていただいている。昨年愛知県産婦人科医会の協力の下、このHTLV-1の母子感染のアンケートを行った。愛知県でも抗体陽性が100人以上いるということが明らかになった。残念ながら前回期間を区切っていかなかったのが抗体陽性率というのが分からなかったため、今年は1年に区切って調査を行わせていただきたい。なるべく簡潔にするようにと思って、1枚になるように項目を絞った。次の2ページのようなアンケートを計画している。名古屋大学の杉浦先生にもご協力いただいて、なんとかWebで簡単にできるような形にならないかと考えている。裏は研究班の報告書で富山大学の齋藤先生のものだが、富山県の1年間のデータでこういうのが出ているので、これの愛知県バージョンでこういうようなデータを出したいと考えているので、ご協力をお願いしたい。

【質疑応答等】

なし

【愛知県における妊娠関連脳卒中および妊産褥期高血圧管理に対する実態調査】

名古屋第一赤十字病院 総合周産期母子医療センター長

古橋 円

大野レディースクリニック 院長

大野 泰正

ただいますでにアンケートを配布しており、それを回収及び検討に入っているところである。また次回あたりに話せると思う。

【質疑応答等】

なし

【愛知県における新生児医療ネットワークの構築に関する検討】

名古屋第二赤十字病院 新生児科部長兼総合周産期母子医療センター副センター長

田中 太平

名古屋大学大学院 周産期母子医学 教授

早川 昌弘

愛知医科大学 生殖周産期母子医療センター新生児集中治療部門

山田 恭聖

先程報告をいたしました新生児ネットワークについて、今年度も引き続いて行いたいと思う。内容は先程申したとおり、「教育」「施設情報データベース」「アンケート調査」「施設交流」「他職種交流とのコラボレーション」の5つのカテゴリで、それぞれ情報交換や色々なことを行っていくということと、今考えているのは、現状においては18施設の施設責任者を主とした運営ネットワークだが、少し広げていこうかなとも考えているので、今年度も更に活動を充実させていいものを作っていきたいと思う。よろしくをお願いしたい。

【質疑応答等】

なし

6. 平成25年度特別講演・調査研究報告会の事業計画について

今のところ日時は12月7日もしくは12月14日を予定している。場所や講師の先生、演目などに関しては未定となっている。

【質疑応答等】

- ・特別講演会は毎年あるが、昨年は長崎の森内先生にお越しいただいたが、小児科関係だったため、今年度はできれば産科関係と考えている。今のところはアイデアとしてはまだ固まってはいないが、各委員の先生方からぜひこういうものを、というご希望があれば、事務局あるいは私のところでも結構だが、ぜひお寄せいただきたい。できるだけ産科関係の演題目でいきたいと考えている。どうぞよろしくお願ひしたい。

7. その他

- (1) 名古屋第一赤十字病院総合周産期母子医療センター平成24年度総括（新生児部門）
資料をご覧いただきたい。
- (2) 名古屋第一赤十字病院総合周産期母子医療センター平成24年度総括（産婦人科部門）
資料をご覧いただきたい。

【質疑応答等】

なし

5 報告事項

1. 周産期医療情報システムの運用にかかる検討会の設置について

本日の配布資料No.6-1及び6-2で説明する。A4が1枚の資料No.6-1、A3の刷りが2枚セットになっている資料No.6-2、こちらの方に基づいて説明させていただく。まず経緯等からまとめさせていただいた。補足しながら説明させていただく。

まず周産期医療情報システムにつきましては、昨年の第2回、この周産期医療協議会で、8月に不具合、不応答事例が3件発生したことが報告されている。その時に様々なご意見等が出され、その後システムをより使いやすく、かつ問題点を把握して解決するため検討会を設置した。それを3回開催いたしました。問題点等を把握し、まとめたものを、第3回の周産期医療協議会に提出させていただいた。No.6-2の1番から8番までの問題点、この8つを報告させていただいたところである。調査であった問題点の1番から4番、1番「iPhoneの操作方法が分からない」、2番「メールの着信音に気づかない」、3番「受け入れ不可との回答ができないから本当に到達したか確認できない」、4番「IDとパスワードが分からなくなってしまって使えない」といったような、システム的な問題については、随時システム修正等で対応可能かということ動いているとのことである。その下の5番から8番、5番「地域の周産期施設の受け入れ依頼の全てのメールが受け入れ側に届いてしまうため、搬送先が遠方であるなど、現実的に搬送困難な依頼が含まれている。結果メールを見なくなってしまうような問題がある」、6番「受け入れ側の設備で、病院内で電波が届かない、もしくはドクターが携帯電話を複数持たなければならぬためにうまく使いこなせていないという事例があった」、7番「周産期医療情報システムの利用の仕方そのものがよく分かっていないなどの問題がある」8番「このシステム自体なくても、現実に1対1で対応していることからあまり使われなくなってしまった」というような運用面での問題、システム面と運用面の両方の問題を提示させていただいたところである。これを受け、第3回の意見として、システム的なものについては対応できるものは順次行っていく。そして運用面での問題、この問題の5番から8番については、今後25年度におきましても引き続き検討会を設置し、対応させていただきたいと考えている。そこで、今般一番下の3の「システム運用検討会（案）」というところだが、表をご覧いただきたい。今年度25年度に設置いたしましたシステム運用検討会の構成委員案だが、こちらを設定

をしようとしているところである。役割と所属であるが、愛知県医務国保課、それから昨年に引き続きまして周産期医療対策事業受託先とさせていただいている名古屋第一赤十字病院、システムの再委託先であるMS ドリーム株式会社の担当者、これに、今年度については、システムの検討及び協議を行うとして、実際に周産期の搬送の受け入れ側である周産期母子医療センターの産科及び小児科の先生をお願いしようかというところである。具体的に今お話をさせていただいているのは、小児科は名古屋第二赤十字病院の田中先生をお願いをさせていただいているところである。産科の方はまだ固まっていないが、決めていきたいと考えている。それから依頼側、周産期医療施設、産科の医師の方ということで、愛知県医師会の可世木理事及び愛知県産婦人科医会の会長である近藤先生をお願いしたいと考えているところである。なお、これにつきましては、今後検討を重ねて、次の第2回周産期協議会に何か案を出して、皆さんにご意見をいただければと考えているところである。どうかよろしくお願ひしたい。

【質疑応答等】

- ・昨年からのこの不応答例について、どのように改善するかということが議論されてきたが、位置付けとしては、現実にはネットワークが目には見えないが存在するわけなので、それがどうしてもうまくいかない、本当に困ったという時にこれを利用していたと結果的になっていると思うけれども、そういうある意味では補完的な位置付けであるということで、皆様方にはお考えいただきたい。何回か検討会議が行われているが、今回お願いした委員の先生方にはご苦勞ですけれども、検討会議に入ってください、最終的には、資料6の別添というところに県の地図が出ているけれども、この中の1案・2案・3案というのがあるが、どの区域分けて iPhone を鳴らすかというところが、一番のポイントであると思う。そのあたりを検討会議で最終的に素案を作ってください、その案を次回の協議会の方に出させていただこうかと考えている。できれば第2回の協議会で、最終的に協議会としての運用について決めて参りたいと思っている。それが決まれば年度代わりを待たずに今年度の途中からでも運用が開始できるのではないかと考えているので、第2回の協議会でこの案について出していただければと思うので、その節はよろしくお願ひしたい。
- ・もう一点この場をお借りし、資料で1枚、「iPhone を2年以上ご利用の方の機種変更について」という件について説明をお願ひしたい。

【郷間先生】

iPhone を2年以上ご利用の方の機種変更について連絡する。法人契約と個人契約をされている先生がいると思われるが、法人と個人で対応が異なるので注意願ひたい。法人契約だが、機種変更の条件としては、現在 iPhone を2年以上利用されているという形で、契約の形がレンタル契約、2年以降自動更新となる。契約終了時には機器の返却が必要となる。機種変更にかかる費用だが、月額は今と同じ価格で、機器変更時の費用も無償対応という形になっている。次のスライドに月額のランニング費用内訳が記載されている。全額で5,708円という形で、機種変更しても変わらない。2年以上経過したかどうかについては、今事務局で調査をしているので、もし自分が使っている iPhone が2年以上経っているのかいないのかということが分からないのであれば、ご連絡いただきたい。個人契約の方は、法人契約のプランを利用することができないため、個別対応しますので、まず私に連絡いただき、それからソフトバンクの担当者を紹介するという形になる。また、個人契約の先生で、機種変更をした際は、アイコン等を iPhone に組み入れなければならないため、私まで連絡をいただきたい。最後のスライドになるが、iPhone の設定・操作マニュアルについては、現在マニュアルを作成中で

ある。来週中、6月10日の週に事務局へ届けるという形になる。最後にシステムに関する問い合わせ先についてだが、愛知県周産期医療情報システムのトップページに、こちらはIDやパスワードを忘れた際のためにだが、愛知県周産期協議会事務局の連絡先を記載させていただく。また、そこからログインした後のページには実際の操作方法の問い合わせのために、MSドリームの連絡先を記載することで現在対応する。もう一点、応需側の操作変更についてだが、これまでは受け入れ可能な場合のみ返信をしていたが、これからは不可能も選択できるようになった。現在すでに対応している。そのため受け入れできない医療機関も不可能と送信をお願いしたい。

【質疑応答等】

- ・マニュアルは作っていただいているようだが、操作の方がよくわからないという報告があがっている。これについて我々はどのように入手することができるのか。
 - 事務局の方からお送りする形になっている。
 - 冊子になるのか。
 - そのとおりである。スライドで作ってあるのでそちらをお送りする。
 - 各委員とオブザーバー全員に配られるのか。
 - 全員にお配りする。
 - その目処は今月中には可能か。
 - 今月中に対応する。
 - よろしくをお願いしたい。

- ・不応需の問題だが、8項目挙げられているが、根本的なことが抜けていると思う。去年の協議会の時に意見を言わせてもらったが、あまり強く言ってもいけないと思いきんなに言わなかったが、入っていないので今日は言わせてもらおう。どうして不応需が出たのかということである。たしかにこの表に載っているように、着信音に気づかないということも当然あると思うが、私が聞き及ぶ限りは、受け入れ側の先生方が24時間iPhoneを持ち歩いているというところに問題があるのではないと思う。全部の病院に問い合わせたわけではないから、実際はきちんと持っている先生が多いのかもしれないが、もし持ち歩いているのであれば当然メールに気づくわけがないし、不応需の問題をこうやって色々、例えば地域に分けるとかを考えても、まったく意味を成さなくなるので、一つはいかにして受け入れ側の病院の先生が24時間持ち歩いているようにしてもらえるかという、そういうところをぜひ検討してもらいたいと思う。それからもう一つ言わせてもらおうと、こういうのを利用するのは多くは開業医の先生だと思う。このシステムの経緯というのは、石川先生がいた時に、前はパソコンで医療情報システムを組んでいた。ところが受け入れ側の先生が更新をしない、「空き状況が、今いくつでこうです」という更新をしないものだから、結局意味を成さない。ではiPhoneなら即時にできるのではないかということで、こういうシステムが始まり、その時に開業医の先生からは、例えば自分がdocomoの携帯を持っているのになぜiPhoneを持たないといけないか、なおかつそういう開業医の先生方はiPhoneを持つために月に何千円か払ってソフトバンクと契約してやっていると思う。いずれにしてもそうやって成り立ったシステムで、受け入れ側施設がiPhoneを持ち歩いているとしたら、ある種の詐欺のようなものだと思う。協議会としてはこのシステムを運営するのであればそこまでしっかりやらないとまずいと思う。もしそれができないのであれば、このシステムを根本から見直して、他のいい方法にするなどしないと、この問題は解決しないと思うがいかがだろうか。

→iPhone のシステムは、結果的には先生が言われたように、受け入れ側が本当にそれを受け入れているかについての問題があると思っている。実際当院が機能してないのではないかというご指摘をいくつも受けている。実際直接やりとりして対応した方が容易になっている。そういった意味でこのシステムはいいところもあったが、どうも受け入れ難いということも常々感じていた。実際受け入れ側として、使い方次第だが、使いやすく非常にいいシステムかどうかというのを、2年も経ったので見直さなければいけないのではないかと感じている。他では機能しているかもしれないが、申し訳ないがうちではそれほど機能していないので、こういう所も聞き入れて思慮していただければと思う。

→6-2で挙げた1から8について、実は検討会の方で私が小児科の指名されて入らせていただいた。やはり先生の言われたことが一番だと思う。受け入れ側が全く反応していない、持ってない、鳴ったことに気づいていないということに関しては、一応6番「受け入れ側施設において電波が届かない、医師が携帯電話を複数持たなければならずうまく使えていない」、こここのところに院内で持ち歩いていないというのも含められている。実施する内容というところで、受け入れ施設側がiPhoneの管理体制を考える。持たなくても、たとえば緊急のホットラインがNICUで鳴った時に誰かが電話を取る、取って当直医に看護師が伝えるということもよくある。そういうことにすると、iPhoneを誰かが必ず気づくところに置いておくとか、施設側でiPhoneの工夫をして対応ができる。鳴ったらすぐ分かるということを24時間持ち歩かなくてもやればいんじゃないかということで、各病院に調査をして、どういう風に24時間気づけるようにしているかを考えた方がいいのではないかということで、6番の実施する内容ということで挙げさせていただいている。小委員会のところでも「皆気づいていない」「鳴っても気づいていない」「音も小さいメールの音なので一回鳴って終わりだし、スヌーズ機能もない」と色々な問題点があって、その中で先生が言われることは一番大切なことだと思う。それを次の小委員会でぜひ色々頑張ってもらいたいと思っている。

→もちろん、各病院でとにかく気づいてもらうというシステムを構築してもらうのが絶対的だが、疑問なのは、持たずして、置いておいて分かるのか。例えば病棟に置いて、メールがきたら誰か反応してよと言っておいて本当に気づくのか。

→それに関しては各施設の対応だと思う。岡崎市民病院の小児科はNICUの中のセンターテーブルの所に置いてある。鳴ったら看護師が気づいている。実際岡崎市民病院は小児科の中ではほとんど返している施設だと思う。それは工夫だと思う。工夫ができなければ、その施設は24時間持つという形になるんじゃないかと思う。あとは問題となってくるのは患者さんの前で鳴った時に、院内で携帯を使うなどといった以上、iPhoneを患者さんの前でぱっと出して反応することが難しいということだとか、そういう院内のルールだとかを全ての病院でクリアできるかどうか、これは調査していかないと分からないと思う。第二日赤では、院内でiPhoneが入らない、電波が入らない場所があるということになると、24時間院内で持ち歩いても実際つながらないところがあるという。病院の電波の機能だとかそういう問題もあると思うので、それは個々で今回の問題点を挙げて、実際クリアできるのかどうかを調べていくということで6番の対応策という形で挙げてある。なかなか難しいと思うし、全ての施設でこれをクリアしていかなければならないので、少し時間はかかるかもしれない。

→くどいようだが、ナースステーションに置いておいても、夜間に看護師や助産師がぱっと出払う時、ナースステーションが一瞬であろうと空になるという時はある。そういうところから考えないと、どうしてこんなシステムかということ、気づかなかつたら終わりということである。確実に気づくために

どうしたらいいかを、そこまで考えていかないと、抜けてしまうことは沢山ある。そこは各病院で考えてもらえばいいが、とにかく落ちのないようにしないと、このシステムは機能しないということだ
と思う。

→結局のところは、皆の意識がどこにあるのかということ、本当に役立つツールだと皆が思っているのかという、とっていないというのがあると思う。そこを一つの施設で直していかないといけない。

→個人的なことを言うと、私はいつも持ち歩いているが、こんなのはポケットに入る。なんの手間暇もない。持つ意識があるかないかという、そこだと思う。私は iPhone、病院の PHS、もう一つ名古屋市の救急隊で何か困ったらかかってくるもので3つ持ち歩いているが、慣れればどうってことはない。まず鳴らないし、持つ意識があるかないか、そこだと思う。

→少し外れるかもしれないが、豊橋市民病院の産婦人科は24時間持ち歩いている。ただ病院の中の構造で、全然電波が届かない、病院に工事をやってくれと言っても、やってくれないということなので、意見としては区域を小さくして、ダイレクトに電話してくれる方がうまく利用できるのかなと考えている。

→持つ持たないという意識の問題に踏み込んでいたようですが、その件についてはご提案いただいたが、検討会議で特に6番の項目を中心に、更に議論を深めていただければと思う。

→貴重なご意見ありがとうございました。まだこれからそういったご意見を、今回お願いしたように検討委員の方から教えていただければということと、この視点を含めて早々に検討を始めさせていただきたいと思う。また、このご意見を含めて検討をしていきますのでよろしくお願いしたい。

2. 平成25年度愛知県 HTLV-1 母子感染対策事業内容について

資料No.7をご覧ください。HTLV-1 母子感染対策につきまして、昨年度までは関連する会議の中で意見交換を行ってきた。今年度は新規事業として、県内の HTLV-1 母子感染に関する実情を把握し、次世代の感染者を減らすために、医療機関と保健機関の連携により母子を支えていくための体制の整備を図ることを目的に、HTLV-1 母子感染対策事業を実施していく。事業内容としては、母子感染を防ぐための体制整備を図るため、医療関係者や有識者の皆様を構成する HTLV-1 母子感染対策協議会を設置していきたいと考えている。先程名古屋市立大学の杉浦先生から説明もあったが、先生の研究を参考にさせていただきながら、この体制整備を進めていきたいと考えている。8月27日には富山大学の齊藤教授、名古屋市立大学の石田准教授に講師をお願いして、医療関係者や保健関係者を対象にした研究会の開催を予定している。また、普及啓発事業も行っていく。この事業を実施するにあたり、周産期医療機関の皆様のご協力をいただきながら進めていきたいと考えているので、よろしく願いしたい。

【質疑応答等】

なし

3. その他

- iPhone ですが、パスワードを忘れて操作方法が分からなくなった時は、どちらに問い合わせればよかったか。名古屋大学でよろしいか。

→周産期事務局である。

→事務局というのは第二日赤か、第一日赤か。

→第一日赤である。

→第一日赤の事務局に問い合わせればいいか。操作方法などもそうか。

→はい。操作方法是また別のところになる。MS ドリームというところで操作方法を教えるという形になっている。それは周産期医療情報システムのトップページの部分でID・パスワードを忘れた方に対して事務局の連絡先を記載しており、ログインされた方、ログインした後に操作が分からないという方については、MS ドリームの連絡先を記載する。

→MS ドリームに問い合わせればよろしいか。

→操作等で分からないことがあればMS ドリームに問い合わせさせていただきたい。

→電話番号とか分かるのか。

→現在対応中で、書き換えを行っている。来週中にはホームページの書き換えがあると思うので、そちらを見ていただくという形でご対応願いたい。

→先程マニュアルが印刷物になるということだったが、そこにもきちんと書かれているのか。

→操作、それからID、パスワードが分からなかった場合の連絡先を記載し配付する。

→今のご意見のように分かりにくい面も多々あると思うので、まずはっきりさせていただきたいと思う。問い合わせは名古屋第一赤十字病院の事務局に問い合わせるということによろしいか。

→パスワードやIDのことについては事務局である。

→操作方法についてはマニュアルを見れば良いが、そうではなくて直接聞きたいという場合にはMS ドリームということによろしいか。

→その通りである。

→名古屋大学の先生の方へ問い合わせることはないのか。

→操作方法、ID・パスワードが分からないということについて研究室に問い合わせることはない。急な不具合があった場合には対応する。

・名古屋市立大学だが、NICU・GCUの増床の工事が始まる。9月からの予定だが、それに合わせて8月くらいから入院制限をさせていただくと思うので、近隣の産婦人科の先生方にはご迷惑をおかけするが、よろしく願いたい。

・最近iPhoneをうちのスタッフに持たせているが、メール入の件数が減っている気がする。件数は最近コンスタントなところはどうか。メールは入っているのか減少傾向なのか。

→現在システムが始まって90件の事案でこのシステムが利用されているが、今年についてはまだ2回である。

→緊急のメールは2回しか入っていないのか。

→はい。

→依頼する側もこのシステムにほとんど頼っていないということか。

→理由については調査をしていないのでまだなんとも言えないが、事実としては今年は2件である。

→つまり、依頼する側もこのシステムを信頼していないし、機能不全に陥っているという印象を持つがいかがか。

→このシステムというのは産婦人科医が(産科の方だが)、まずは近くの周産期センターか市民病院へ電

話をして、そこで受け入れがだめだと言われて、そこが2回断られた時に初めてこのメールの一斉発信システムに乗るわけですね。私も理由は分からないが、印象として思っているのは、依頼して周産期センターが受け入れるパターンが多くなったのではないか、だからある意味うまく機能している。このシステムに載せないといけないところまで困っている例が少なくなっていると思っている。正しいかは定かではない。

→受けてもらう側から申し上げると、実はこのシステムは、先生がおっしゃったようなスタートの仕方をしたが、そのうち電話で直接通じる、あれはすごくいい。そういうことをしている先生は、第一日赤なら第一日赤の電話を押すと先生がすぐに出てくれるので、交換手を通して電話をするだけでいいのでダイレクトに事が進むのでいい。うちは近くですので第二日赤にお願いすることが多いが、出ていただいた時はすごく助かる。そういう面ではメールでないからあちらのシステムには出てこないだろうが、使っている人はたくさんいるだろうと思う。ただメールは心配で、正直言って返ってこないこともあるし、本当に駄目な時だけ打つが、現実には今は直接電話させていただいている。このシステムを利用しながら電話させていただくので、それで話がついてしまうので、いわゆるシステムの記録の方には出てこないところが多いのではないかという気はしている。

→近藤先生がおっしゃるように、まずは直接電話をいただいている。2回ですか、どうしてもという時に初めてiPhoneのシステムが利用されるわけで、決して機能不全に陥っているわけではないということですね。もう一つはそのような使われ方をしていると思うので、本来の産婦人科の先生、あるいは周産期センターでできあがっているネットワークが、我が愛知県では主に働いている、機能している。これは99%機能している。残りの1%を補完するという意味で、このiPhoneをより使い勝手のいいものにしようという、そういう努力が必要ではないかと思っている。先程もご意見があったが、まず検討会議でご検討いただければと思う。

→iPhone（の番号）を電話として使っているということか。メールとしてしか使っていないのか。

→電話として現実に使っている。

→iPhoneの番号で直接電話をしているということか。

→はい。

→その実態を調べた方がいいかもしれない。たとえばうちだと開業医の先生がiPhoneじゃなくて病院に電話をかけている。それをiPhoneでできれば便利かもしれない。

→それは非常に使いやすいと思う。本来の使い方とは違うかもしれないが。

→また次回の時もこれに関連した協議事項があると思うのでよろしくお願ひしたい。

<次回医療協議会開催について>

*平成25年度第2回周産期医療協議会を、平成25年10月25日（金）「名古屋第一赤十字病院 内ヶ島講堂」にて開催する。

*平成25年度第3回周産期医療協議会は、金曜日は祝日のため、前日の3月20日（木）に開催する。